

## 平成26年度調査研究活動の実績報告

中内 桂郎

観光イベントの取り組みに於いては、県外に行ってみて、食をあてにする旅人もいる現状の様子。400万人の観光客をもう少し、増していく対策を考慮する。

公共事業の促進は前年比を上回る感度であるが、着実な営業活動で業績を上げていくことが望ましいと思う。

産業振興と雇用対策では、依然として厳しさを感じる。一次産業では、とりわけ、農業問題があるTPP問題にも左右されずに頑張っていく体制をしっかりと築いてほしいし農協改革は農業者にも理解と尽力がほしいと思う。また大豊産業の躍進を期する。何と云っても農業が豊かになれば、産業問題は進まないと思う。

高校、大学生の就職促進にしても、産業全般が足腰が弱くは経済、雇用問題にも影響が及び、その前途には不安がある。福島県では98.9%である。県においてももう少し力を入れて努力の必要があると感じた。

スポーツ振興では普及と振興に力を入れているが、実態では厳しさが残るし、競技力向上にしても大きな成果は乏しい。中には弓道等に力を付けた競技もあったが、中でも相撲や陸上などが大きく落ち込み今後期待をする。また、東京オリンピック等に力を入れて頑張してほしい。

環境問題では、仁淀川全般については仁淀川ブルーで売り出し中であり、今後においても、流域自治体のイベント開催などに積極的に力を入れるべきだと考える。筏競争をやったらと感じます。四万十川には、これで良いと云う分けではないが、もう少し他の河川にも力・投資が必要であると考えます。

福祉行政では、自立支援や社会的弱者や高齢者医療等については、まだまだ力が必要だと感じた。障害者とスポーツは年々力を付けて来たと思うが今後も力を入れていきたい。認知症対策にも少し、力が必要である。

財政対策に於いては、国の変化に伴って、好感度的であり、今後は国の動向をしっかりと把握しながら進めていくべきだと注視している。

3.11東日本大震災地視察には、まだこれだけかと自問自答をするだけで、大いに残念である。一番最初に見に行った時、現地で、国の金が必要だと云ったことが、今さら乍ら思い出させる。しっかりせよと政府に大いに云えたい。